

③資金を獲得するためにNPOがすべきこと

講師：静岡文化芸術大学 文化政策学部 国際文化学科 教授 下澤 嶽 氏

静岡文化芸術大学の下澤教授には、活動資金を獲得するための考え方やそのポイントについて講義をしていただきました。

団体の活動を安定させるには、自己財源の獲得が不可欠です。その中でも、会費・寄附をどのように獲得していくかは、一番初めに検討すべき事項です。自己財源は、市民に顔を向けて直接訴えかけなければ獲得できません。支援を求める姿勢を持ち続け、お金ではなく仲間を集めるという意識を持つことが大切だと教えていただきました。



アンケートでは、「大変参考になった」という声を多くいただきました。また、それ以外にも「寄附を集めることをもう少し考え直して積極的にやってみようと思った」「自己財源と外部財源についてもう一度見直してみたい」という意見もありました。参加された皆様にとって良い刺激になったのではないのでしょうか。

勉強会は来年度も引き続き開催する予定です。はままつ夢基金への団体登録をお考えの皆様、是非ご参加ください。

平成 28 年度寄附実績

平成 28 年度の寄附実績をご報告します。(平成 29 年 3 月 21 日現在)

- ◆寄附件数：6 件
- ◆寄附金額：3,075,490 円（運用収入含む）
- ◆寄附者：
 - ◀希望寄附▶
 - ・井上 幸雄 様
 - ・岡本 恵子 様
 - ・株式会社エム・ツー 様
 - ◀一般寄附▶
 - ・いなさ湖フィッシングクラブ 様

※寄附受付順。お名前の公表に同意をいただいた方のみを掲載しております。

ご支援いただき、
ありがとうございました！！



はままつ夢基金についてのお問い合わせは
浜松市 市民部 市民協働・地域政策課
☎ (053) 457-2094 まで
【浜松市ホームページ】

浜松市→くらし・手続き→市民活動→市民協働→はままつ夢基金

はままつ夢基金通信 第6号



～みなさまからの寄附でこんな事業ができました～

(H29年3月発行：浜松市 市民協働・地域政策課)

H27年度 採択事業のご報告

昨年度の採択事業のうち、前号でご紹介できなかった分をご報告します！

①第2回 はままつこどもどうぶつしょうぎ大会 (いっぽ浜松 どうぶつしょうぎを育てる会)

スタートアップ
サポート事業

補助額	50,000 円（総事業費 108,027 円）
事業概要	<p>幼児・児童の自立心とコミュニケーション力の発達を目指したどうぶつしょうぎ大会を開催しました。</p> <p>どうぶつしょうぎ独特の三つの特徴(①簡単ですぐに取り組める、②ルールを守って行動する必要がある、③一人で決断すると共に相手の決断内容に敬意を払う)を生かした企画であり、挨拶や礼儀作法を学べるだけでなく、短期間に集中して取り組む大会形式によって思考力や想像力の成長を促します。</p>
事業の成果	<p>幼児及び小学生が保護者と離れて自立して行動し、初めて会う同年代の子どもと、どうぶつしょうぎをはさんで交流し、自分で判断する機会を得ることで成長することを目標としました。</p> <p>大会中の参加者へのインタビューでは、「頭を使って、よく考えていい手が頭に浮かんだことが嬉しかった。」「自分と同じ幼稚園の子がいっぱい来てくれて嬉しかった。」などの声や、「初めての大会で、親から離れて長い時間対局できるか不安だったが、誰にも頼らず、自分一人の力で最後まで指していた姿を見ることができて嬉しく思った。」といった保護者の声がありました。</p>
今後の展開	<p>今後も引き続き、浜松市でどうぶつしょうぎを通して青少年の健全育成に努めていきます。そのためには、入門者へのフォロー(各地での体験会)とステップアップしたい子どもたちのための目標となる大会の二本を柱にして活動していきます。</p>



①ハンドスタンプアートプロジェクトライブ in はままつ友愛のさとまつり
ライブ招致及びサポート事業
(ICCHI～医療的ケア児と歩む会～)

スタートアップ
サポート事業

補助額	28,878 円 (総事業費 57,756 円)
事業概要	浜松市発達医療総合福祉センターで開催の「はままつ友愛のさとまつり」にて、ハンドスタンプアートプロジェクト(以下、HSAP)のチャリティーライブを招致しました。広報及び当日の手伝い等のサポートをし、ライブ前後では、対象となる子どもたちの手形登録会を実施しました。
事業の成果	<p>HSAP とは、病気や障がいと向き合う子どもたちの手形や足形を集めてひとつの大きなアートを完成させ、2020 年東京パラリンピックでの掲示やギネスへの挑戦を目指す壮大なプロジェクトです。</p> <p>プロジェクトを通して、多くの方にこのプロジェクトを知ってもらい、同じように病気や障がいと向き合う子どもたちの家族同士が繋がっていくこと、地域の方々が普段はなかなか立ち入ることのない友愛のさとに足を運びきっかけになること、病気や障がいをもつお子さんのハンドスタンプをたくさん集めることを目的としました。</p> <p>当日は、90 枚以上の手形が集まり、市外のみならず県外から参加して下さった方にも多数声をかけていただきました。必要としている多くの方に情報が届いていたことが確認できました。</p> 
今後の展開	<p>今回、ハンディキャップを持つお子さんが市内外から通所・通院する友愛のさとにて、HSAP のイベントが開催できたことにより、その情報が一気に多くの関係者の方、当事者やご家族の方へと届くきっかけになりました。</p> <p>これを機に、もっと多くのお子さんが HSAP に参加し、ご家族と共に 2020 年の東京パラリンピックを目指し、日本中・世界中のお友達やそのご家族と想いを共有し、個々の声をみんなの声として届けることができることを身をもって経験していきたいです。2020 年のその先にそれぞれが感じ行動に移していくきっかけとなることで、病気や障がいと向き合うお子さんやご家族にとって暮らしやすい社会となっていくように、我々も一緒になって発信していきます。</p> 

はままつ夢基金登録団体と、これからはままつ夢基金への団体登録を検討されている団体などを対象に制度説明会及び勉強会を開催しました。3 名の講師をお招きし、制度創設の経緯や状況、制度活用事例、資金を獲得するために NPO は何をすれば良いのかなどについて講義していただきました。当日は、市内で活動されている 21 の市民活動団体の皆様にご参加いただきました。

(1) 制度説明

まず、事務局から制度の説明を行いました。
はままつ夢基金は、寄附者の税制優遇というメリットを利用することで、市民活動団体が寄附を集める手段の一つとして活用していただく制度です。寄附金収入は、団体が活動をしていく上で重要な収入源の一つです。寄附を集めるための積極的な PR 活動が重要であることを説明しました。



(2) 勉強会

①夢基金制度の創設について

講師：特定非営利活動法人浜松子どもとメディアリテラシー研究所 理事長 長澤 弘子 氏

はままつ夢基金制度の創設に関わった長澤氏を講師にお招きし、市民協働推進条例と夢基金制度の設置目的、経緯、設置時の状況等についてお話をいただきました。
市は夢基金制度を通して何をを目指すのか。納税者の立場として、社会課題を解決するための活動をしている立場として、市民活動団体は夢基金に何を期待するのか。それぞれにどんな役割や責務があるのか。市と市民活動団体が、お互いに議論し合う必要があることをお話いただきました。



②事例発表

講師：特定非営利活動法人浜松日本語・日本文化研究会 理事長 加藤 庸子 氏

事例発表では、基金登録団体である NPO 法人浜松日本語・日本文化研究会の理事長 加藤氏をお招きし、夢基金制度を活用した寄附の呼びかけ方法について、ご紹介していただきました。
当該団体は、基金登録団体の中で、夢基金への寄附を最も多く得ている団体です。どんな時に、どのように、誰に対して呼びかけを行っているのか、成功事例・失敗事例を交えて、そのテクニックをお話いただきました。



今年度は、この他に以下の事業を実施しています。次号で完了報告をします。

◆浜松ドイツリート研究会 (浜松ドイツリート研究会)

スタートアップ
サポート事業